

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol withdrawal syndrome: Turning minor injuries into a major problem. 中等症、軽症患者の入院によって生じるアルコール禁断症状による影響について	
執筆者	
Bard MR, Goettler CE, Toschlog EA, Sagraves SG, Schenarts PJ, Newell MA, Fugate M, Rotondo MF.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Trauma. 2006 Dec;61(6):1441-5; discussion 1445-6.	
キーワード	
アルコール禁断症状、外傷、入院	
要 旨	
<p>背景： アルコール常習飲酒者にとって入院はアルコール禁断症状のリスクとなる。本研究はアルコール禁断症状が外傷患者の入院期間、コスト、合併症罹患率、死亡率にどのような影響を与えるかについて検討することを目的に行った。</p> <p>方法： National Trauma Registry of the American College of Surgeons database の 1999 年 7 月から 2004 年 2 月までの期間の後ろ向きレビューによって検討した。我々の level I trauma center(高次救急救命センター)に入院した解剖学的重症度(Injury Severity Score(ISS))が 16 点未満の中等症、軽症で 15 歳以上の患者を対象とした。アルコール禁断症状は脳の過興奮状態(不穏、易刺激性、頻脈、発汗、発作、譫妄)で他の原因を除外し、アルコールの飲酒歴や飲酒量から診断した。アルコール禁断症状発症者と非発症者とを比較した。外傷機転、ISS、生理学的重症度(Revised trauma score)、Glasgow Coma score、入院経過、死亡率、コストについて検討した。検定は χ^2 検定、または Student's T test を用いた。P<0.05 を有意とした。</p> <p>結果： 6431 名の患者のうち 55 名がアルコール禁断症状を示した。アルコール禁断症状は男性が多く(96.4% vs. 60%)、ISS が高く(8.0 vs. 6.4)、Glasgow Coma score が低い(13.3 vs. 14.2)傾向にあった。また人工換気装置装着期間(6.79 vs. 3.47)、ICU 入院期間(7.58 vs. 3.30)、入院期間(15.85 vs. 4.85)が長い傾向が見られた。さらに呼吸不全(23.6% vs. 1.4%)、肺炎(18.2% vs. 1.1%)、尿路感染症(9.1% vs. 1.8%)、敗血症(7.3% vs. 0.3%)などの合併症が多かった。また気管切開(12.7% vs. 1.1%)、胃瘻造設術(PEG)の率(12.7% vs. 0.9%)も高くコストも高い傾向にあった。死亡率(3.6% vs. 1.3%)は両者で有意な差は認めなかった。</p> <p>結論： 中等症、軽症のアルコール禁断症状発症者では合併症が増加し入院期間、費用の増加がみられた。中等症、軽症者の重症化を防ぐためにアルコール禁断症状の予防法について更なる研究が必要である。</p>	